

NO. 399
2022.12
2023.1

CENTER NEWS



目 次

年頭にあたり	寺西 一哲……………	1
11・12月定例理事会	……………	2
第43期臨時総会開催報告	森 辰義……………	3
令和4年度 三団体合同見学会に参加して-1	稲垣 光艶……………	4
令和4年度 三団体合同見学会に参加して-2	竹末 圭一郎……………	5
防災訓練（滋賀）に参加	西野 真海……………	6
ミニ講習会を行いました	仲西 渉……………	7
全地連「技術フォーラム2022」那覇 参加報告	林 峻平……………	8
労務関係のページ	……………	9
委員の独り言	梅本 学……………	11
編集後記	長谷川 智昭……………	12

表紙写真 大募集！

センターニュースの表紙にあなたの撮った写真を載せませんか？
写真とその表紙の説明（撮影した状況やその物の説明、言いたい事など
なんでも構いません）を付けてinfo@ks-dositu.or.jpにお送り下さい。
採用された方にはちょっとしたお礼もご致します。
皆様のご投稿をお待ちしております。

表紙説明

新名神高速道路 淀川橋（仮称）工事の進捗の写真（その2）をお送りいたします。
写真の方向は、樟葉～高槻市方面です。
上の写真は2021年7月、下は2022年4月です。

（写真・文責：読者提供）



年頭にあたり

理事長 寺西 一哲

皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

旧年中は組合員皆様には多大なるご支援とご協力を頂き、ありがとうございます。本年も引き続きお願い申し上げます。近年聞き飽きた「ことば」ですが、今年こそはコロナが終息することを望むものです。

11月14日、第43期臨時総会を開催し、無事終わることが出来ました。その挨拶でも述べましたが、今のところ、売上・利益とも計画を上回っており、皆様方のご協力の賜物と感謝しております。しかしながら、2023年以降の受注動向には、十分注意が必要と考えております。

さて、センターには30歳位までの若手職員が6名おり、2022年は地盤工学会全国大会、全地連「技術フォーラム」、Kansai Geosymposiumを合わせ、5編の研究発表を行いました。発表することは、文章表現力やプレゼン力の向上など、その能力アップに繋がります。付加価値としてセンターの知名度向上にも貢献しております。又、2022年の地質調査技士試験に職員2名が合格者致しました。これら若手職員の成長は中堅職員へも良い影響を与え、将来的にセンター全体の底上げになると考えておりますので、今後も最大限のサポートをしていきます。

新たな人財の確保として、2022年4月にパート職員2名を正職員に昇格させました。

又、4月の採用予定者として、大学生と高校生各1名に内定を出しており、春を待ち焦がれるところです。まだまだセンターの業務内容は手仕事に頼る部分が多く、今後も継続的な人財確保が必要です。

センターが成長し続けるためには、今以上に組合員からの信頼を得ること。精度・品質管理を徹底すること。人財の育成を図ること。以上3つを堅持する必要があります。それらの目標実現のために、理事長としての決意を掲げます。

- ① センターの知名度向上（ホームページの充実、積極的な外部発表）
- ② 個人の資格取得（試験技術に対する意識向上に直結し、さらに成長出来る）
- ③ 土質試験の新技术の会得および試験機器の開発（自動化・省力化への実現）
- ④ 最新試験機器の積極的な更新（精度・品質管理の徹底、試験機メーカーとの共存）
- ⑤ 技能試験に積極的に参加すること（精度・品質管理の向上、職員の意識向上）
- ⑥ 次の10年に向けて目標を実現する意識改革（土質試験業界のトップランナーになる）

「目標」を実現させることは、理事長の使命の一つと胸に抱いております。その目標を達成するには、組合員をはじめとする「お客様」のお力添え、そして試験を実施する「職員・パート職員」の努力、さらに「理事会」のサポートがうまくかみ合うことが必要不可欠となります。うさぎ年にあやかり、ピョンピョン跳ねて飛躍の一年となりますようお願い申し上げます、年頭の挨拶とさせていただきます。

11月 定例理事会

Regular board of directors

令和4年11月14日（月）12時00分より、大阪キャッスルホテル会議室にて理事10名が出席して開催した。

定款の定めにより、寺西理事長が議長に就任し議事進行を行った。

【報告事項】

- 1) 一般経過報告
10月の会議・会合・行事について報告した。
- 2) 10月分事業報告の件
- 3) 第43期臨時総会担当確認の件
- 4) 年末・年始の業務の件
- 5) その他の件
(1) 組合員代表者変更について

【審議事項】

- 1) 組合職員冬期賞与支給検討の件
- 2) 道路側フェンス改修について
- 3) 第43期通常総会開催日程・開催場所の件
- 4) その他の件
(1) インボイスの件

12月 定例理事会

Regular board of directors

令和4年12月22日（木）15時00分より、ガーデンシティクラブ大阪会議室にて理事9名が出席して開催した。

定款の定めにより、寺西理事長が議長に就任し議事進行を行った。

【報告事項】

- 1) 一般経過報告
11月の会議・会合・行事について報告した。
- 2) 11月分事業報告の件
- 3) 第43期臨時総会費用精算の件
- 4) その他の件

【審議事項】

- 1) 次期専務理事の処遇について
- 2) 次期小委員会委員について
- 3) その他の件

第 43 期臨時総会開催報告

副センター長 森 辰義

11月14日（月）第43期臨時総会を大阪キャッスルホテルにて開催致しました。

司会者が開会を宣し、次に寺西理事長が挨拶を行いました。その後、窪田副理事長が議長に指名され、議事は滞りなく進められました。澁谷啓新顧問が挨拶され、臨時総会は終了致しました。本臨時総会に引き続き、講師をお願い致しました国土交通省近畿整備局企画部技術調整管理官の堤英彰様より、「近畿地方整備局のインフラDXの取り組み」についてというテーマで約1時間にわたりご講演を頂きました。

懇親会では、大阪府中小企業団体中央会の三宅部長様の挨拶のあと、一般社団法人関西地質調査業協会 小宮理事長様の乾杯の発声で和やかに始まり、熱い歓談が行われ、盛会の内に終了致しました。



寺西理事長挨拶



近畿地整 堤管理官の講演



関西協会 小宮理事長の乾杯



中央会 三宅様の挨拶

令和4年度 三団体合同見学会に参加して-1

株式会社アテック吉村

稲垣 光艶

この度、関西地質調査業協会・日本応用地質学会・関西地盤環境研究センター、この三団体の技術者交流をかねられた合同技術見学会に参加させて頂きました。

見学対象は関西国際空港で、関西エアポート株式会社の協力により普段立ち入ることの出来ない“制限エリアを見学できる”とあり、飛行機大好き人間として後先の予定も確認せず反射的に申し込ませて頂きました。人数制限があるとの見出しもありましたが、幸運にも希望が叶い当日を迎えました

私が所属する会社は大阪府岸和田市にありまして、関西国際空港のお膝元と言うこともあり空港に関連した様々な業務に携わった経験があります。

1期島では航空機走行特性調査。2期島では埋め立て前の調査ボーリング、サンドドレーン間の沖積粘性土の圧密確認のためのサンプリング調査、進入灯点検橋土質調査、2期島竣工後の1期島2期島間の中水面における調査ボーリング等、土質調査を中心に私なりに深く関わりを持った思い出深い場所です。

このような業務を通じ、関西国際空港では当初見込んでいた沖積粘性土の圧密沈下だけではなく、一般的には圧密沈下の心配が少ないとされていた洪積粘性土の圧密沈下と戦っていることを知りました。

このような事から、建築された各種建築構造物のジャッキアップによる保守メンテナンスは、沖積粘性土の圧密沈下に対応する筈だったものが、実際には洪積粘性土の圧密沈下にも対応することとなり、底なしの状況に対応し続ける各種メンテナンスにも興味があり、機会があれば実物を見てみたいと思っていました。

見学会では、南北約1.7kmにおよぶターミナルビルを1994年の開港当時から支える柱のジャッキアップの規模の大きさを目の当たりにし、また洪積粘性土の沈下計測の結果も拝見し、今後も続く圧密沈下との戦いへの決意を深く受け止めてきました。

また近年では、気候変動に伴う予測困難な異常気象への対応も含め、埋立て地盤～基礎地盤とそれにフィットする建築構造物、それぞれを健全に維持していくための方策として、例えば空港島護岸の嵩上げ工事や止水を目的とした地中連壁の構築など空港島を護るための継続的な取り組みを解説して頂き、土木と建築がタッグを組み想像を超える種々の困難に立ち向かう関西国際空港の未来に、ワクワクが止まらない有意義な見学会でした。



座学講義状況



沈下対策見学状況

令和4年度 三団体合同見学会に参加して-2

株式会社 白浜 試 錐
竹末 圭一郎



いつも楽しく参加させて頂いています。企画されている皆様に感謝申し上げます。
今回は普段見ることのできない立入制限エリアを見学させて頂きました。

まず、関西国際空港の歴史をスライドでわかりやすく説明して頂きました。我々が携わったボーリング調査や土質試験も紹介され、感慨深い思いでした。

いよいよバスに乗込み、現地見学の始まりです。立入禁止区域へのゲートは戦車が突っ込んできてもビクともしないような構造でした。警備員の方がバスの中に乗り込み一人ずつセキュリティパスのチェックと爆発物の検査を受けました。徹底した管理体制の中で、沈下対策後1m程度浮き上がった柱や階段と、間延びした扉に日々の苦勞を感じました。不同沈下対策がシンプルなジャッキアップ主体であることに驚かされました。

滑走路先端の進入灯点検橋梁やタンカーバースの見学では、離陸体制の航空機の側をバスで通過しながら日常にはない景色にワクワクしました。

最後に見学した沈下観測点では、ボーリング孔に挿入された直径400mm弱のケーシングが海水で腐食しながらも現役で沈下計測している様子に、不同沈下対策の長い歴史を感じました。

13:30 北田さんの挨拶で始まった盛り沢山の見学を終えて、中山さんの締めで解散したのが16:30頃でした。それから17:05発のラピートに乗って泉佐野駅まで10分間の海外旅行帰りの気分を味わい、白浜への帰路につきました。

皆様 本当にありがとうございました。来年も継続して楽しい見学会が開催されることを楽しみにしています。



鉄板による沈下調整



沈下観測点



ラピートβ

防災訓練（滋賀）に参加

地盤技術室 西野 真海

お疲れ様です。センター西野です。滋賀県長浜市にて開催された令和4年度滋賀県総合防災訓練に参加させていただきました。

たくさんの防災展示がある中に地質業界のみならず、電話会社や病院などいろいろな業界の方々が参加されていることが強く印象に残りました。

私は今回、テールアルメ工法を模型で体験していただく展示品にてお手伝いさせていただきました。その模型はゲーム要素があり、遊びながら工法の重要性を知ることができ、たくさんのお客様に体験していただけたと思います。

他に地震による液状化現象の実験装置の展示もあり、そちらもたくさんのお客様が見学会されていました。非常に面白くもあり、現実でおこると恐ろしい現象であると再認識することができました。

他社の展示品を見学させていただいた中で一番印象に残ったものは、非常食として配布されていた、缶詰のミルクビスケットです。長期保存できるうえに試食したところ普段食べるビスケットと変わらないクオリティであることが驚愕でした。

開催時間が9時から12時までと短い時間ではありましたが、非常に濃密な体験をさせていただいたと思います。

次の機会も是非とも参加させていただきます。



参加メンバー



缶詰のミルクビスケット



液状化実験装置



テールアルメ工法模型

ミニ講習会を行いました

地盤技術室 仲西 渉

2022年10月17日(月)、ミニ講習会を関西地盤環境研究センターの3F会議室にて開催しました。今年度は現地とWeb形式での参加という形で行いました。

講演内容は以下の3篇です

- ・ 粒度（沈降分析）における浮ひょう読み取りの自動化への試み（その3）
（協）関西地盤環境研究センター 仲西 渉
- ・ 地下300m以深における断層周辺岩盤の間隙率と地下水に関する研究
（株）地圏総合コンサルタント 澁谷 奨
- ・ これからの道路防災を目指して～土壌雨量指数の活用について～
中央復建コンサルタンツ（株） 金村 和生

今回初めての発表だったので聞こえるような声の大きさか、どのような喋り方をすればいいのかなど考えてしまいグダってしまったと思います。今回の発表を今後の論文発表に役立てたいと思います。

全地連「技術フォーラム 2022」那覇 参加報告

地盤技術室 林 峻平

令和4年11月8日～9日に開催された、全地連「技術フォーラム 2022」那覇に参加しましたので、報告致します。

私は「粒度試験（沈降分析）における浮ひょう読み取りの自動化への試み（その3）」について発表しました。この研究の目的は、沈降分析の浮ひょう読み取り測定の自動化を試みることです。その背景としましては粒度試験（JIS A 1204）のうち、沈降分析は攪拌した懸濁液の静置後1分及び2分の読み取りでは浮ひょうを入れたままで読み取りますが、その後の読み取りでは「浮ひょうを必ず抜出す」と規定されています。そのため沈降分析開始から60分目の測定までの間、試験者はメスシリンダーの近傍を離れられないゆえに、長時間の拘束が負担となっています。そこで、浮ひょうの読み取りの自動化が必要となりました。

私にとっては初めての社外での発表で非常に緊張しており、二日目の自分の発表まで気が気ではありませんでした。発表本番の時も落ち着かず会場の空気のにまれ、練習のようにはいきませんでした。質疑応答は上手く答えられず、優秀技術発表者も逃してしまい非常に悔しかったです。今後も研究は続けていくのでこの発表で経験したことを今後の研究に活かしていき、こういった場には積極的に参加していきたいと思えます。



内容外のことになりますが、私は今回初めて沖縄を訪れました。沖縄の街は大阪の街とはなにからなにまで異なり、前知識としては知っていても驚くことばかりでした。11月とは思えない気温に圧倒的半袖率、見慣れない食材に料理と興味深いことが多かったです。また滞在中に皆既月食も観測でき思い出深いものになりました。

(1) 社会保険適用拡大について

(従業員が 101 人以上は令和 4 年 10 月から、従業員が 51 人以上は令和 6 年 10 月から)

◆令和 4 年 10 月からは従業員数 101 人以上、令和 6 年 10 月からは 51 人以上の会社のパート・アルバイトが厚生年金・健康保険の加入対象になり、従業員数のカウント方法は厚生年金保険の適用対象者となります。

加入対象は、(1) 週所定労働時間 20 時間以上、(2) 月額賃金 8.8 万円以上、(3) 2 カ月超雇用見込みがある、(4) 学生ではない、の 4 つに該当する従業員ですが、手取り収入への影響から、働き方を変える人が出てくると考えられます。例えば、加入希望の人がシフトを増やして手取り減を回避したいと言ったり、扶養を外れたくない人がシフトを減らしたいと言ったりするかもしれません。

会社の保険料負担や発生する手続きも気になりますが、従業員が働き方を変えるとシフト編成等に影響が生じる可能性もあります。従業員へのヒアリング等を行い、支障が出ないようにすることが必要です。

◆短期パートの適用漏れに注意

上記要件のうち、(3) は当初契約の雇用期間が 2 カ月以内でも、契約更新等されると、当初から社会保険に加入となります。これまでの「1 年超」との要件が撤廃されるため、特に適用漏れに注意が必要です。

年金事務所による調査で適用漏れは厳しくチェックされ、万が一があると保険料の遡及払いが発生し、従業員負担分も含めていったん会社が立て替えざるを得なくなったりします。適正に手続きがされているか、チェックしておく必要があります。

◆雇用保険料率も令和 4 年 10 月から引上げ

従業員数 100 人未満の会社も、雇用保険料率の引上げによる影響があります。一般の事業で事業主分が 1,000 分の 6.5 から 8.5 に、労働者分が 1,000 分の 3 から 1,000 分の 5 に引き上げられます。

【日本年金機構「令和 4 年 10 月から短時間労働者の適用拡大・育休免除の見直し等が行われます」】

<https://www.nenkin.go.jp/oshirase/topics/2022/0729.html>

【厚生労働省「令和 4 年度雇用保険料率のご案内」】

<https://www.mhlw.go.jp/content/000921550.pdf>

(2) 育児休業改正

(令和4年10月から)

◆産後パパ育休（出生時育児休業）の創設

産後パパ休暇は、子の出世後8週間以内であれば4週間まで取得可能となりました。

また、原則、休業の2週間前まで、労使協定を締結している場合に限り、労働者が合意した範囲で休業中に就業することも可能となりました。

◆育児休業の分割取得

改正前の育児休業は、原則分割して取得することはできませんでしたが、改正後は、子どもが原則1歳になるまでの間、分割して育児休業を2回取得できるようになります。

◆育児休業等を理由とする不利益取り扱いの禁止・ハラスメント防止

今回の改正で、妊娠・出産の申し出をしたこと、産後パパ育休の申し出・取得、産後パパ育休期間中の就業を申し出・同意しなかったこと等を理由とする不利益な取り扱いも禁止されます。また、事業主には、上司や同僚からのハラスメントを防止する措置を講じることが義務付けられています。

(ハラスメントの典型例)

- ・育児休業の取得について上司に相談したら「男のくせに育児休業を取るなんてあり得ない」と言われ、取得を諦めざるを得なかった。
- ・産後パパ育休の取得を周囲に伝えたら、同僚から「迷惑だ。自分なら取得しない。あなたもそうすべき。」と言われ苦痛に感じた

(令和5年4月から)

◆育児休業取得状況の公表の義務化

従業員数1,000人超の企業は、育児休業等の取得の状況を年1回公表することが義務付けられます。

◆就業規則変更

育児休業改正に伴い各社就業規則の変更が必要となります。

委員の独り言

以前にも書かせて頂きました、日建設計サッカー部の活動ですがコロナ禍で2年間中止していた合宿を12月中頃に行いました。

1日目は大阪チームと東京・名古屋選抜のほかに4チームを招待して大会を行いました。予選リーグは2位で勝ち抜けて準決勝はPK戦で勝利し、決勝はPK戦で負けて準優勝でした。夜はホテルで食事と忘年会でのビンゴ大会で盛り上がり、その後はワールドカップの3位決定戦を観戦しました。

2日目は大阪チーム対東京・名古屋選抜で練習試合をやりました。さすがに2日目は途中参加者以外の全員が足腰がつってボールが蹴れませんでした。

試合終了後、みんなで銭湯へ行き、昼食中に合宿のMVPの発表を行い、近くの駅まで車で送って合宿が終わりました。年に数回ですが仲間と集まって楽しむことが出来る環境があることが幸せだと感じました。

(地盤技術室 梅本 学)



1日目集合写真



決勝戦開始の瞬間



2日目の練習試合後



MVP発表

編集後記

2022年の12月、とうとうコロナの陽性判定を頂きました。

この間の10月に遅めの3回目ワクチンを済ませたところだったので、罹ることはない
と高をくくって、呑み会にせっせと参加していた矢先の出来事でした。

前日夜の喉痛と鼻水が異常だったので念のため受けたPCR検査のはずでした。

「陽性ですね」の先生の一言で、豆鉄砲を食らった鳩になったあとは、PCR検査の屋外
ビニールハウスの中で、茫然と寝耳に水状態で、先生の説明を受けました。

そこから、市への陽性者登録、会社への罹患報告、予定されていた打ち合わせの変更等、
てんやわんやの一日をこなしたあと、夕方、発熱が始まり、夢のような3日間（熱でうな
されあまり覚えていません）を過ごすことになりました。

皆様、コロナはかなり手強いです。お気をつけてお過ごしくださいまし。

(株)日建設計 長谷川 智昭



組合員・賛助会員名簿

【組合員名簿】

(50音順)

会社名	電話番号	会社名	電話番号
株式会社 アテック吉村	(072)422-7032	株式会社 タニガキ建工	(073)489-6200
株式会社 池田地質	(06)6797-2280	株式会社 地域地盤環境研究所	(06)6943-9705
株式会社 勇コンサルタンツ	(06)6306-6907	株式会社 地圏総合コンサルタント 四国支店	(0897)33-3123
株式会社 インテコ	(0742)30-5655	中央開発 株式会社 関西支社	(06)6386-3691
株式会社 エイト日本技術開発 関西支社	(06)6397-3888	中央復建コンサルタンツ 株式会社	(06)6160-1121
株式会社 オキコ コーポレーション	(06)6881-1788	株式会社 東京ソイルリサーチ 関西支店	(06)6384-5321
応用地質 株式会社 関西事務所	(06)6885-6357	株式会社 東建ジオテック 大阪支店	(072)265-2651
川崎地質 株式会社 西日本支社	(06)7175-7700	東邦地水 株式会社 大阪支社	(06)6353-7900
株式会社 関西土木技術センター	(075)641-3015	土質コンサル 株式会社 大阪事務所	(072)634-6373
株式会社 基礎建設コンサルタント	(088)642-5330	株式会社 中堀ソイルコーナー	(06)6384-9069
基礎地盤コンサルタンツ 株式会社 関西支社	(06)4861-7000	株式会社 日さく 大阪支店	(06)6318-0360
キタイ設計 株式会社	(0748)46-2336	株式会社 日建設計	(06)6203-2361
株式会社 キンキ地質センター	(075)611-5281	株式会社 日本インシーク	(06)6282-0310
株式会社 KGS	(072)279-6770	日本基礎技術 株式会社 関西支店	(06)6351-0562
株式会社 建設技術研究所 大阪本社	(06)6206-5700	日本物理探査 株式会社 関西支店	(06)6777-3517
興亜開発 株式会社 関西支店	(072)250-3451	ハイテック 株式会社	(06)6396-7571
株式会社 興陽ボーリング	(06)6932-1590	株式会社 阪神コンサルタンツ	(0742)36-0211
国際航業 株式会社 関西事業所	(06)6487-1111	阪神測建 株式会社	(078)360-8481
株式会社 国土地建	(0748)63-0680	株式会社 ビュー設計	(088)665-7360
サンコーコンサルタント 株式会社 大阪支店	(06)6121-5011	復建調査設計 株式会社 大阪支社	(06)6392-7200
有限会社 ジオ・ロジック	(072)429-2623	双葉建設 株式会社	(0748)86-2616
株式会社 白浜試錐	(0739)42-4728	報国エンジニアリング 株式会社	(06)6336-0228
株式会社 ソイルシステム	(06)6976-7788	株式会社 メーサイ	(06)6190-3371
株式会社 大同ソイル	(0745)63-1850	明治コンサルタント 株式会社 大阪支店	(06)7178-1659
株式会社 ダイヤコンサルタント 関西支社	(06)6339-9141	株式会社 ヨコタテック	(06)6877-2666

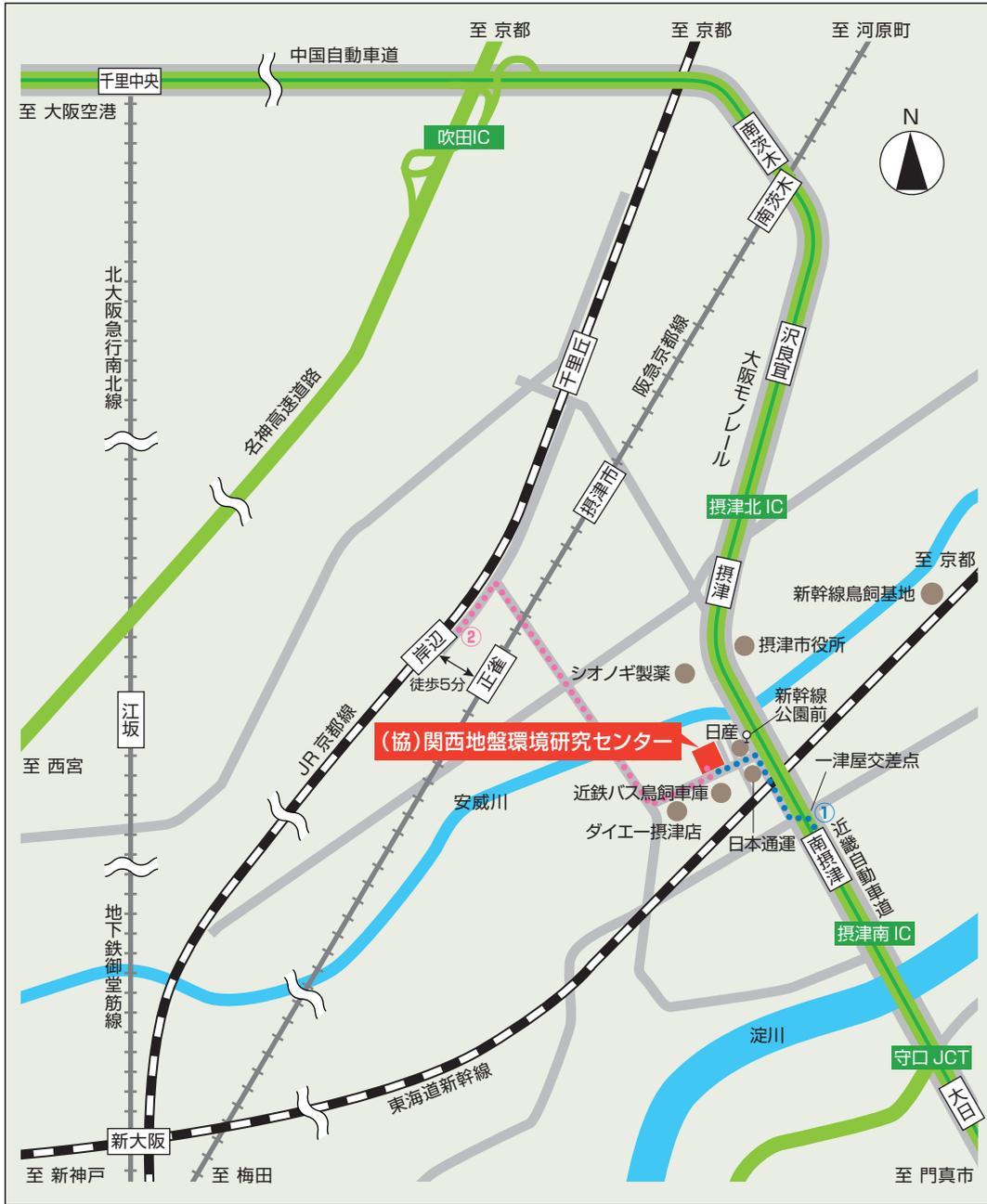
【賛助会員名簿】

会社名	電話番号	会社名	電話番号
株式会社 アサノ大成基礎エンジニアリング 関西支社	(06)6456-1531	株式会社 総合技術コンサルタント	(075)312-0653
株式会社 アーステック東洋	(075)575-2233	株式会社 ソルブレイン	(06)6981-3330
株式会社 JFDエンジニアリング	(06)6531-3326	株式会社 兵庫コンサルタント	(0799)28-1074
株式会社 創研技術	(088)652-0077		

発行 協同組合 関西地盤環境研究センター
〒566-0042 摂津市東別府1丁目3番3号
TEL 06-6827-8833 (代)
FAX 06-6829-2256
e-mail tech@ks-dositu.or.jp

編集 広報小委員会
編集責任者 中山義久
印刷 千里丘印刷

<https://www.ks-dositu.or.jp>



①南摂津駅(大阪モノレール)より徒歩12分 ②JR岸辺駅よりタクシーで約10分

新大阪駅より地下鉄御堂筋線に乗り千里中央駅でモノレールに接続、千里中央駅から南摂津駅まで21分

協同組合 関西地盤環境研究センター

〒566-0042 大阪府摂津市東別府1丁目3-3

TEL.06-6827-8833(代表)

FAX.06-6829-2256(地盤技術室)

<https://www.ks-dositu.or.jp>